

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の概要

大会概要

■大会概要

1 オリンピック競技大会

正式名称 第32回オリンピック競技大会

開催期間 2020年(平成32年)7月24日～8月9日

競技数 28競技(平成27年8月時点)

※本年9月に、IOCへ5競技(野球・ソフトボール、空手、スケートボード、
スポーツライミング、サーフィン)を追加種目として提案
→平成28年8月にIOC総会にて最終決定

2 パラリンピック競技大会

正式名称 第16回パラリンピック競技大会

開催期間 2020年(平成32年)8月25日～9月6日

競技数 22競技

■2020年に向けたスケジュール

1 主な国際スポーツイベント

時期	内容
2016年(平成28年)8～9月	リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会
2018年(平成30年)2～3月	平昌オリンピック・パラリンピック競技大会
2019年(平成31年)7月～ 2020年(平成32年)4月	テストイベント(本大会で使用予定の競技会場を使ったイベント)
2019年(平成31年)9～10月	ラグビーワールドカップ2019
2020年(平成32年)7～9月	東京オリンピック・パラリンピック競技大会

2 大会にかかる主な行事

2016年(平成28年)春頃	大会エンブレム発表
2016年(平成28年)夏	リオ大会引継ぎ式
2017年(平成29年)	大会マスコット発表
2019年(平成31年)	聖火リレールート発表

選手村・競技会場

■選手村整備

1 建設場所

東京都中央区晴海四丁目・
五丁目の一部

2 面積

44ヘクタール

3 宿泊可能人数

約17,000人

4 整備スケジュール

平成27年度 都市計画手続等

平成27年度～31年度 防潮堤・道路等基盤整備(都)

平成28年度～31年度 建築物工事(民間)

平成32年度 本大会



出典:「選手村 大会終了後における住宅棟のモデルプラン」
平成26年12月19日東京都発表

■競技会場整備

1 オリンピック競技会場

決定 27競技・30会場

未決定 1競技(サッカー ※会場の追加を検討)

2 パラリンピック競技会場

決定 19競技・15会場

未決定 3競技(自転車競技、5人制サッカー、パワーリフティング)

3 新国立競技場

(1) 今後の整備スケジュール

平成27年12月末 設計・施工を行う事業者選定

平成32年 4月末 工事竣工期限

(2) 性能

大会時 6万8千席程度を確保

大会後 8万席(国際サッカー連盟W杯規定への対応)

(3) 建設費用

工事費(スタジアム本体+周辺整備) 1550億円程度

※対象経費の負担割合(国1/2、スポーツ振興くじの特定金額1/4、東京都1/4)

気運醸成

大会を成功させるためには、日本全体の盛り上がりが不可欠。組織委員会、都、区市町村、関係団体等が連携し、各種気運醸成に取り組んでいく。

1 組織委員会

- ・大会の象徴であるエンブレムを活用して気運を醸成
- ・新エンブレムは、国民に広くエンブレムデザインを募集し、平成28年春頃に発表予定（発表までは、現行の招致エンブレムを使用）
- ※エンブレム等のオリンピック・パラリンピックに関する知的財産は、IOC及びIPCの独占的な所有物。大会スポンサー、開催都市（都及び都内区市町村）・各府省、報道機関（報道目的に限る）等に使用を限定
- ※町会・自治会や商店街等の団体は、原則として使用不可。ただし、区が商店街などにエンブレムの入ったPRツール等を掲出することは可能となる場合有。区に要相談

2 東京都

- ・パラリンピックの普及
「NO LIMITS CHALLENGE」（パラリンピアン講演、展示、競技体験等のプログラム）
パラリンピックガイドの制作
- ・カウントダウンイベント、2016リオ大会ライブサイト等
- ・区市町村と連携した取組（共同イベント等）

文化プログラム

スポーツのみならず文化の祭典でもあるオリンピック・パラリンピックに向けて、日本の魅力的な文化を国内外に発信するさまざまな取組を実施していく。

1 東京都

- ・文化プログラムのリーディングプロジェクトとして、日本の多種多様な芸術が集う文化発信の新しいムーブメント「東京キャラバン」を実施
- ・アールブリュット等の障害者アート普及など、リオ大会後に文化プログラムを本格的に展開

2 国（文化庁）

- ・都道府県や市区町村等の文化イベントを支援する「文化力プロジェクト」を都や組織委員会と連携しながら実施し、2016年秋から日本全国で20万件にもおよぶ史上最大規模の文化プログラムを展開

ボランティア

大会を契機として都民のボランティア活動への参加を促進し裾野を広げ、ボランティア文化を定着させる。

1 組織委員会

- ・会場案内・誘導、競技運営など、大会の運営をサポートする「大会ボランティア」を8万人採用。2018年から募集し、2年間の研修後活動開始

2 東京都

- ・「都市ボランティア」：空港・主要な駅・観光スポット等に設けたブースなどで、観光・交通・会場案内等のサービスを提供する。1万人採用し育成
- ・「外国人おもてなし語学ボランティア」：日常生活のあらゆる場面で外国人に積極的に声をかけ、おもてなしを実施する。3万5千人育成
- ・「観光ボランティア」：外国人が多く訪れる街なか（日本橋・銀座等）において、旅行者に積極的に声をかけ外国語で観光案内を行う。3千人活用
- ・「おもてなし親善大使」：次代を担う中高生が、外国人旅行者へおもてなしの心をもって観光案内を行う。1千人育成

外国人旅行者等の受入環境整備

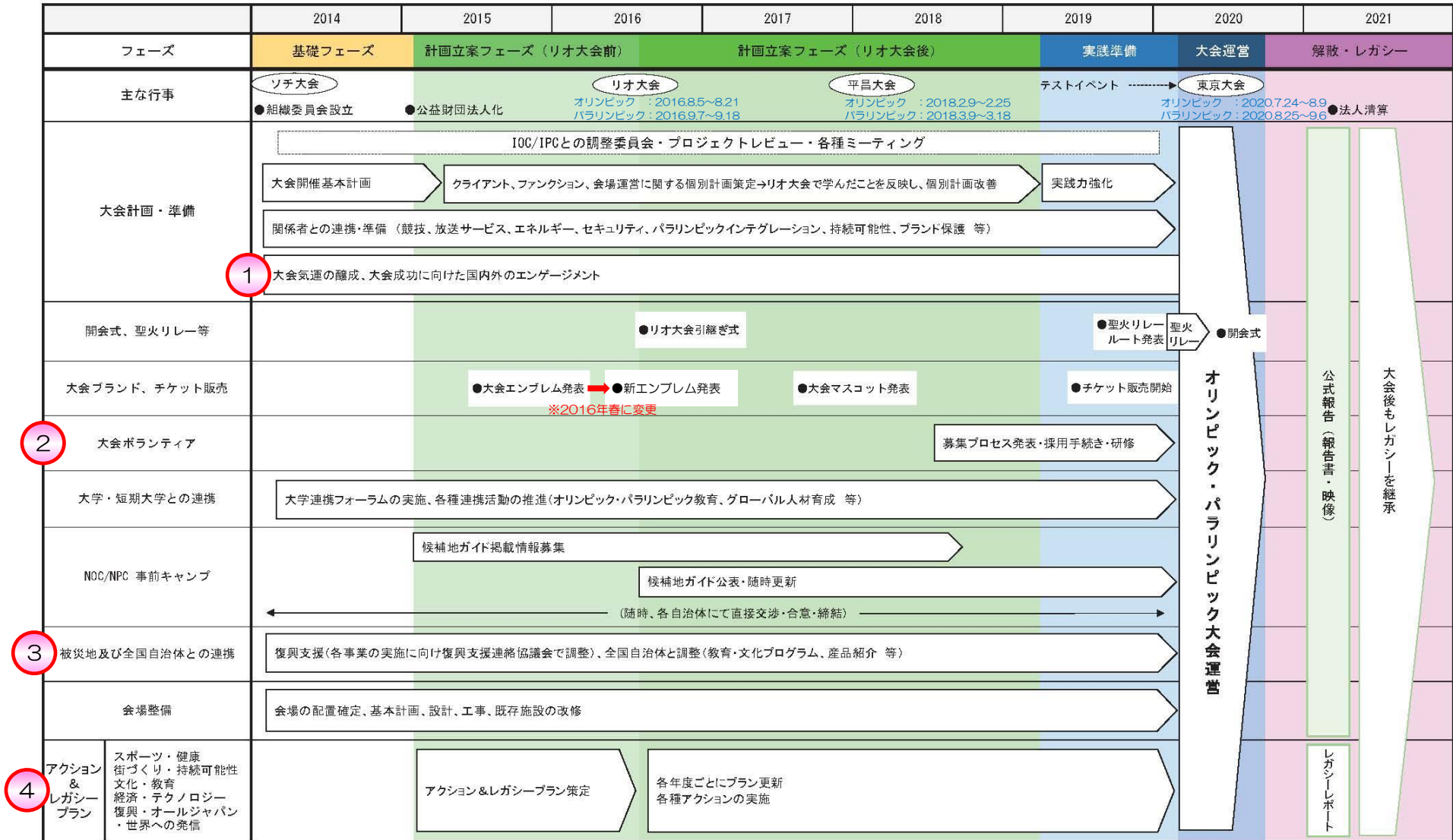
2020年に向けて、政府は外国人旅行客数を年間2,000万人、都は1,500万人と目標設定。世界有数の観光都市を目指す上で欠くことのできない外国人旅行者等の受入環境の向上を図っていく。

1 東京都

- ・外国人旅行者の円滑な移動や快適な滞在に資する環境整備を図るため、広域的に官民が参加した「多言語対応協議会」を設置（平成26年3月）。多言語対応の統一性・連続性の確保に向けた取組方針を策定（平成26年12月）
※交通機関、飲食・宿泊等の観光・サービス施設、ICTツール等各種媒体などを対象
※日本語＋英語及びピクトグラムによる対応を基本。必要に応じて中国語・韓国語等に対応
- ・外国人旅行者が、一人でもまち歩きを楽しめるよう「国内外旅行者のためのわかりやすい案内サイン標準化指針」を策定（平成27年2月）。従来の指針に観光施設・宿泊施設・飲食店編を追加
- ・無料Wi-Fiサービスの接続環境向上
- ・観光案内拠点・窓口の整備、情報通信技術の活用等による観光案内機能の充実

東京2020大会 ロードマップ

「東京2020大会開催基本計画」(組織委員会 平成27年2月発行)を基に作成



① ~ ④ 中央区オリンピック・パラリンピック区民協議会(仮称)で今後の取組が想定される分野